

競 技 注 意 事 項

本大会は、2023年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。また、新型コロナウイルスへの対応については、十分注意し、参加すること。

1 練習について（使用方法について下記参照）

練習は、主競技場、補助競技場及び雨天練習場を原則とする。投てき競技（円盤投・ハンマー投・やり投）の練習については、多目的広場を使用する。砲丸投の練習は、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う。使用の際は係員の指示によって行う。

① 主競技場の使用について

競技開始30分前までの使用とする。運営準備と並行して行うので、係員の指示に従うこと。

② 補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・1～2レーンは、周回練習のみ使用可とする。ただし、1レーンはトライアル、2レーンはジョグ練習とする。（集団ジョグは不可。）
- ・3～4レーンは、短距離、リレー練習を優先する。
- ・5～6レーンは、400mHを優先する（大会2日目まで）。
- ・ブロックを使用してのスタート練習は、多目的広場側直走路4～7レーンとする。
- ・多目的広場側直走路9レーンは、女子100mH、11レーンは、男子110mHとする。
- ・テント等を設営しての独占的な使用をしない。
- ・メディシンボールやミニハードル等、競技場備え付けの用具以外は使用禁止とする。

③ 雨天練習場の使用について

- ・ピストルの使用は禁止する。
- ・入場は、第2ゲート側の入口から入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
- ・シート等を敷いて独占的な使用は絶対にしない。
- ・ウォーキング、ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動き作り程度の練習は行ってもよい。それ以外は補助競技場で行うこと。
- ・ウォーキング、ジョギング等は左回りとし、逆走はしない。
- ・ハードル、スターティングブロックは使用できない。

④ 多目的広場の使用について

- ・投てき練習を行う際は、指導者等が付き添い、安全管理に努めること。
- ・競技終了後の投てき練習は認めない。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。また、スパイクの本数は原則として11本以内とする。

3 アスリートビブスについて

アスリートビブスは指定された大きさと数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手はどちらか一方でもよい。

トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右につけること。3000m以上の種目と4×400mRの第2、第3走者は、主催者の準備したアスリートビブスを胸部に付けること。そのビブスは、招集所にて配布する。

4 選手招集について

- ①選手招集場所は第2ゲート（1500mスタート付近）とする。
- ②選手招集時間は下記のとおりとする。

トラック競技（予選）		トラック競技（決勝）		フィールド競技	
開始	完了	開始	完了	開始	完了
30分前	20分前	25分前	15分前	40分前	30分前

※ただし、棒高跳については、60分前に現地で招集する。

- ③リレーのオーダー用紙は、招集完了時刻の1時間前までに提出すること。なお、決勝においてもオーダーの変更の有無に関わらず、予選に準じて提出すること。
- ④混成競技は、第1日目・第2日目とも第一種目は競技者係が招集所にて招集するが、それ以降の種目については、混成競技係が混成競技控え場所で点呼・確認後、各競技場所に誘導し、担当審判員に引き継ぐ。（混成競技控え場所は「ウォーミングアップ室A」とする）
- ⑤2種目同時に出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出ること。

5 競技について

- ①競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ②トラック競技のスタート合図は、イングリッシュコマンドで実施する。
イエローカード（以下、YC）について
 - ・WA競技規則CR18.5の規定により、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、に違反があった競技者やリレーチームにYCを提示し警告を与える。この場合他の種目との合算は無く、種目ごとに累積し、種目ごとにリセットする。
 - ・同一種目で2回のYCの提示を受けた競技者は、当該種目を失格とする。ただし、それ以後の他の種目の出場は可能である。YCを提示の累積は、当該種目のみに適用する。
- ③トラック競技の次ラウンド進出は着順優先とし、各組上位者のみとする。
プラス進出者の決定で同記録者が出た場合は、判定写真を拡大し細部（**電気時計 1/1000**）まで読み取り着差判定をする。その最下位で同記録者が出た場合、ハードルを含む800mまでは、レーンに余裕がある限り次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕がない場合は抽選して決定する。1500m以上の同記録者は次のラウンドに進出できる。
- ④4×100mリレーの第2・第3・第4走者は、主催者が用意したマーカー（1カ所）を使用することができる。使用したマーカーはそのチームで処理する。
- ⑤4×400mRの第3・第4走者の待機順は、200mスタート地点を通過した順序とし、それ以後いかに順序が入れ替わろうとも変えることはできない。
- ⑥各レースの**不正スタートは1回目から全て失格**とする。（ただし、混成競技は別規則）
- ⑦競歩は制限時間を設ける。最後の1周に入った時点で下記の時間を超えないこと。
男子5000mW 30分 女子5000mW 35分
- ⑧競技者が、競技場内へ携帯電話等の通信機器やスマートウォッチ、ビデオ・デジカメ等の撮影装置を持ち込むことは禁止とする。
- ⑨競技者が、競技場内に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込むとき、「競技会における広告および展示物に関する規定」に従って、持ち込みの規制や商品名を隠す等の処置を受ける場合があるので注意すること。
- ⑩助力については、競技場内での助力は禁止とするが、コーチングエリアからの助言については、競技運営並びに他の競技者の競技に妨げにならない範囲で認めるものとする。その際、コーチの持つ映像を見せることはできるが、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。なお、文書をもって連絡することや当該競技場所を勝手に離れることはできない。当該競

技の審判員にその旨を伝えてから移動すること。

⑪規則 TR5 の規定外シューズの使用は認めない。

⑫リレー競技に出場するチームは、同一デザインのユニフォームで参加しなければならない。

6 競技用具について

①競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、棒高跳用ポール・やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検査は競技開始 60 分前に第 1 ゲート(ゴール付近)横の倉庫前で行う。

②練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

7 跳躍競技について

①走高跳・棒高跳のバーの上げ方(ただし、当日の天候等により変更あり)

		練習							以降
走高跳	男子	155	160	165	170	175	180	183	3 cm刻み
	男混	135	140	145	150	153	156	159	3 cm刻み
	女子	129	134	139	144	147	150	153	3 cm刻み
	女混	115	120	123	126	129	132	135	3 cm刻み
棒高跳	男子	270	280	300	310	320	330	340	10 cm刻み
	女子	190	200	210	220	230	240	250	10 cm刻み

②三段跳の踏切板の位置は、男子は 1.1 m、女子は 9 m に設置する。

8 表彰について

①個人表彰は、第 1 位から第 3 位に賞状を授与する。

3 位までの入賞者は、決勝終了後、入賞者控所(メインスタンド下、中央入口内)で待機し、係員の指示を受ける。表彰は、上半身のみユニフォームを着用すること。

②学校対抗の表彰は、閉会式において男女とも総合、トラック、フィールドの第 1 位から第 3 位まで行う。

③得点は、1 位-8 点、2-7、3-6、4-5、5-4、6-3、7-2、8-1 点とする。
ただし、混成競技の得点は、『総合』のみに加える。

9 その他

① やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。

② 救急・救護について、応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、メインスタンド下中央付近の医務室に連絡すること。

③ 記録は競技終了後、大型映像で表示する。競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録の速報は愛媛陸協 HP から確認できます。

《 連 絡 事 項 》

本大会で、6 位以内の入賞者(男女走高跳、男子棒高跳については 6 名以内)に、四国大会出場権を与える。ただし男女混成競技、女子棒高跳、女子三段跳、女子ハンマー投は 4 位(女子棒高跳は 4 名以内)まで、男女 5 0 0 0 mW は 5 位までとする。各種目で四国大会への出場権を獲得した学校は、メインスタンド下第 1 会議室の高体連本部(高岡・井上)で、四国大会申込関係書類を受領すること。